

# 外傷センター

## 診療スタッフ

副院長・センター長 土田芳彦

部長 西田匡宏、二村謙太郎

医長 長谷川雅之、鈴木崇史、佐藤亮、小川高志

医員 山田佳世、賀鵬、市橋雅大、宋聡明

## 診療概要

グループ理念の「断らない救急」365日24時間体制での救急対応のもとで、当科は関節内骨折から一般骨折をはじめ、重度四肢損傷（四肢挫滅損傷、神経・血管損傷、軟部組織欠損、開放骨折）の治療を行っております。患者さんの一日でも早い社会復帰を目指し、各科の皆さん、手術室、外来病棟、リハビリの各スタッフと共に最短・最善の医療提供が出来るよう、日々励んでいます。

### <主な対応症例>

骨折、重度四肢損傷の切断指接合、血行再建、皮弁形成、また偽関節や変形治癒骨折等の難治性骨折合併症例等の治療に対応しております

## 診療実績

<手術件数> 下記：図1

<ドクターヘリ搬入数>（外傷症例） 合計：17件

### 【学術論文】

1.長谷川真之,二村謙太郎,西田匡宏,白川哲也,土田芳彦,骨折関連感染症に対する high concentration antibiotics local infusion の有用性,骨折,2021,8,43(4),1141-1145.

2.Futamura K, Sato R, Hasegawa M, Suzuki T, Tsuihiji K, Nishida M, Shirakawa T, Tsuchida Y. A gustilo IIIB open tibial fracture complicated by a huge bone defect and larger soft tissue defect: A case report,Journal of Othopaedic Science,2021,11,3:S0949-2658(21) 00347-X.

### 【学会発表】

1.長谷川真之,第64回日本手外科学会学術集会,骨軟部再建を要した手部挫滅手の課題,2021.4.

2.土田芳彦,第94回日本整形外科学会学術集会,骨接合術後感染の最前線 感染性偽関節に対する血管柄付き腓骨移植,2021.5.

3.小川高志,第47回日本骨折治療学会学術総会 教育研修講演,足関節三果骨折に合併する Haraguchi 分類 Type 2 の後内側骨片は内固定するべきか?,2021.7.

4.土田芳彦,第47回日本骨折治療学会学術総会 教育研修講演,外傷関連感染症,2021.7.

5.西田匡宏,第47回日本骨折治療学会学術総会,透視側面像における第一仙椎の対臓線交点は Transiliac-Transsacral Screw の挿入点の指標になりうるか?,2021.7.

6.長谷川真之,第47回日本骨折治療学会学術総会,骨欠損を合併しない下腿骨幹部開放骨折 Gustilo3B の治療成績/骨欠損合併例との比較,2021.7.

7.二村謙太郎,第47回日本骨折治療学会学術総会,下腿開放骨折 Gustilo3B の治療成績 ～重度四肢再建専門施設からの報告,2021,7.

8.村岡辰彦,第47回日本骨折治療学会学術総会,重度下肢外傷の転院搬送に県境は影響ない,2021.7.

9.二村謙太郎,第70回東日本整形災害外科学会,骨盤骨折の治療戦略 up to date 骨盤輪・寛骨臼骨折に対する新しい治療戦略,2021,9.

10.土田芳彦,第48回日本マイクロサージャリー学会学術集会,重度下腿開放骨折における吻合血管の選択,2021.12.

11.村岡辰彦,第34回日本肘関節学会学術集会,転位型の小児上腕骨顆部骨折に対する仰臥位整復法とその成績,2022.2.

12.小川高志,第35回日本四肢再建・創外固定学会学術集会,重度手部デグロービング損傷に対する段階的手部再建術,2022.3.

13.二村謙太郎,第35回日本四肢再建・創外固定学会学術集会,Mangled foot and ankle の治療成績

# 外傷センター

-Retrospective case series,2022.3.

## その他の活動

- 1.湘南鎌倉重度四肢外傷 Peer Review Web Meeting - 湘南鎌倉の重度四肢外傷の100例の振り返り（全25回/2020年12月～2021年12月）
- 2.湘南鎌倉 Mangled Hand Peer Review Meeting（第5回/2022年1月～3月）
- 3.湘南/札幌 Strategy Meeting（全12回/2022年1月～）
- 4.症例と文献に学ぶ外傷整形外科（全7回/2022年1月～）
- 5.レジランド -Resident Conference Land（全18回/2022年1月～）

## 展望/抱負

外傷センターは、診療、教育、研究を柱としている。診療では4つの専用手術室と専属麻酔科医、専属看護師を擁し、年間2400件の手術を行っている。すべての症例は毎朝のカンファレンスで検討し、統一した治療方針のもとに治療を行っている。教育としては、外部からの見学、研修を積極的に受け入れているだけでなく、近年は、webを使ったセミナーや、SNSを用いた教育活動にも力を入れている。研究面でも、その統一した治療方針で得られた知見や成果などを学会や論文を通じて発表している。今後の抱負としては、ハード面としては、手術室、看護師、病棟、外来、リハビリが独立することで診療をよりシームレスに行うことを目標としている。ソフト面では、当センターの診療をより、世間に伝えるために、治療ガイドラインのようなものを作成し発表するとともに、具体的な手術手技動画などの作成も計画している。

<手術件数>図1

2021年	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
手術数	178	169	169	193	189	169	174	226	239	200	154	203	2263
内 緊急手術	16	29	27	24	34	20	26	22	20	14	21	20	273